

【特集】「学習科学と学習工学のフロンティア—私の“学習”研究—(後編)」

質問による思考のトレーニングツール

A Tool for Thinking Training with Questions

松田 憲幸
Noriyuki Matsuda

和歌山大学システム工学部
Faculty of Systems Engineering, Wakayama University.
matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp, http://www.wakayama-u.ac.jp/~matsuda

京極 真
Makoto Kyougoku

吉備国際大学保健医療福祉学部
School of Health Science and Social Welfare, Kibi International University.
kyougoku@kiui.ac.jp, https://sites.google.com/site/kyougokumakoto/

Keywords: thinking skills, self-regulated learning, learning from experience.

1. はじめに

私達は、日々、多様な価値の狭間にあって込み入った状況のもとで判断を迫られている。例えば、医療従事者は、ときに医学の価値観と患者の価値観の両方を引き受けることで深刻なジレンマに陥ることがある。「あの経験が頭を離れず、悔やんでも悔やみきれない」や「方針をめぐって対立した相手の考えが全く理解できない」といった状態は、いわば目に付きやすい結果に執着した思考状態にあり、自らの隠れた信念を自覚することなく絶対視し、それが対立する場面に直面したがゆえに起こされた泥仕合であり、ときに深刻な悩みに陥ることになる。結果に至るまでの思考のプロセスをよく吟味することで新しい価値を生み出す“思考のわざ”をもつことが肝要といえる。

本稿では、疑義なき信念が矛盾するゆえに起きる確執を「信念対立」と呼び、信念対立を解明する思考法「信念対立解明アプローチ」を医療従事者を育成する大学院の講義へ導入した実践例から、特に、自問自答を駆使した思考に関する学びを深めるツールを解説する。

2. 信念対立解明アプローチの授業

信念対立解明アプローチ [京極 11] は、医療の臨床の現場で信念対立を解明する思考法である。構造構成学を理論的基盤とし、現象、志向相関性、構造の関係を明らかにしたうえで、この構造が成立する原理を明らかにし、信念対立の様相を解明して自他の疑義の余地なき信念を揺り崩すことでこれを解消する。背後に隠れた信念の対立を吟味させるための記述フォーマットを図 1 に示す。

信念対立解明アプローチを医療従事者を育成する A 大学、B 大学の大学院生 (各 8 名と 11 名) を対象とする平成 26 年度・集中講義の演習課題として導入した。具

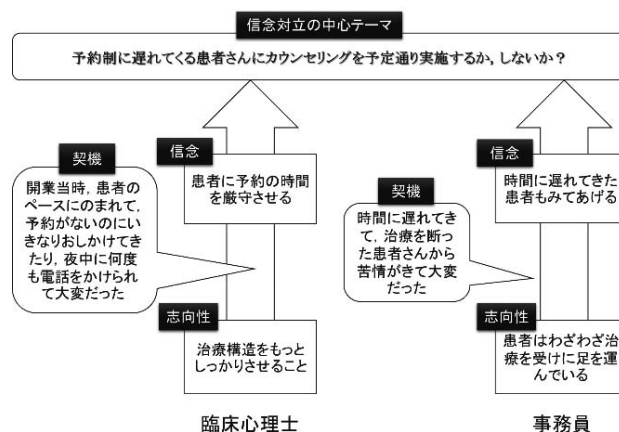


図 1 信念対立解明まとめシート [京極 11]

体的には、解明フレームと呼ばれる関係性の外化フレームと、疑義の余地なき信念を揺り崩す“自問自答”をシステムに組み入れた。

導入する授業は 2 日間で構成され、1 日目は信念対立解明アプローチの講義および後述する信念対立解明ツールのサンプル事例による解説、最後に宿題を課す。2 日目は各自が宿題で持ち寄った事例を題材にグループで議論する。主要な流れを概説する。

1. 自己内対話 (1 日目と 2 日目の間) : 自分の対立した経験から一つを取り上げ、自他の思考の前提、対立の様相を解明フレームに沿って吟味し、記述する。ただ自他の違いをぼんやりと考えるのではなく、それぞれの思考の前提を明示的に言葉に言い当てさせ、それらの違いに分析的、意識的に目を向ける。
2. ディスカッション (2 日目) : 解明フレームを協働作成する議論目標を設定し、他者と議論しながら解明フレームを作成する。自分の思考と異なる他人の思考に触れ、疑義の余地なき自分の考え・信念が絶対ではないことを実感させる。一人の宿題 1 事例について約 30 ~ 40 分を説明および議論に当てる。

3. 信念対立解明ツール

自己内対話およびディスカッション（他者対話）の両方で同一のツールを利用して考え方について吟味する。

ツール画面（図2参照）の左半分は学習者が記入した“まとめシート”を表す。「状況」および「信念対立」フィールドの2個、および、自分と他者それぞれの「意見」、「関心・目的」、「背景」の6個、さらに「共通する状況」、「共通する目標」、「目標達成のための具体的なアクションプラン」の3個の計11個のフィールドで構成される。

右半分は、隠れた信念を掘り起こすための自問自答を表す。状況と信念対立を除く各9フィールドには、あらかじめ、内容に依存しない問いかけ“汎化質問”が提供される。学習者は各フィールドについて、プルダウンメニューから適当な汎化質問の一つを選び、さらに質問および答えを記述する。結果、記述した3項目×9フィールドの表を自己内対話、他者対話それぞれに完成させる。

汎化質問を選ばせることは、自己対話では吟味をさらに深めるきっかけを与えること、他者対話では自らと異なる汎化質問の使い方に気づかせることを意図する。

図2 信念対立解明ツールの質問作成結果画面

The screenshot shows a table titled '作った質問一覧' (List of Created Questions) with columns for 'フィールド' (Field), '汎化質問' (Generalized Question), '質問' (Question), and '答え' (Answer). The table lists 11 fields and their corresponding questions and answers. Below the table is a flowchart showing the relationship between 'フィールド' (Field), '汎化質問' (Generalized Question), '質問' (Question), and '答え' (Answer).

フィールド	汎化質問	質問	答え
私の意見	何が問題になっていないのか？	なぜそれが問題になったのか？	現場でしか対応できないという点。
私の関心・目的	信念対立に対するあなたの意見は？	信念対立に対する理由は何？	
私の背景	どんな観点、関心の点で見ているのか？	どういふ立場？	職員という立場の中で、トコがもたれる点。
異なる意見	どういふ過程を通じた、そのよな意見をもつに至ったのか？	実践的に行かざるを得ない理由は何？	職年数が短くないで、高層階まで行けるように構えたい。
異なる関心・目的	関心はどのよりの点で、そのよな意見をもつに至ったのか？	関心はどの点で、そのよな意見をもつに至ったのか？	患者の治療を邪魔しないようにしたい。
異なる背景	何がきっかけで、そのよな意見をもつに至ったのか？	作業療法に携わることになったのはいつ？	現場での作業療法が患者にいい治療でも作業療法士が改善する結果を望んでいない。
共通する状況	共通する状況認識ありますか？	お互いの認識認識ありますか？	勝手に話を聞いて聞いては、やはり見えないところ。
共通する目標	より満足できる目標はありますか？	もっと適切な共通目標は？	院内での連携を求めるといふ点とよい共通目標になったかもしれない。
目標達成のための具体的なアクションプラン	誰が目標達成のキープワードですか？	作業療法士の責任、その人認識させて、何れかの役割はあってもいいかもしれない。	

実際に提供した汎化質問 74 個から、その一部を示す。

1. 意見の汎化質問 (11 個)
何が問題になっているのか？、ぶつかるポイントはどこにあるのか？、どう振る舞ったか？
2. 関心・目的の汎化質問 (11 個)
なぜ自分（他人）が意義がある、大事であると考えているのか？、関心や目的が妥当といえる根拠は何か？、何を欲求しているのか？
3. 背景の汎化質問 (11 個)
どういうきっかけがあったから、そういう関心や意見を当たり前だと思うようになったのか？

4. ま と め

特に、勤務経験を積む社会人の大学院生ほど汎化質問を使った質問が多く見られ、受講生から「(宿題の作成は)自分と向き合うことになった」、「ツールを使って具体的な議論を同僚としてみたい」といった感想が得られた。本ツールのデモを <http://ai.sys.wakayama-u.ac.jp/belief/> に公開している。蓄積したケースを将来の学習資源として活用する仕組みについて検討している。

◇ 参 考 文 献 ◇

[京極 11] 京極 真：医療関係者のための信念対立解明アプローチ—コミュニケーション・スキル入門—, 誠信書房 (2011)

2015年6月15日 受理

著 者 紹 介



松田 憲幸 (正会員)

1991年関西大学工学部卒業、1996年大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修了。博士(工学)。同年、大阪大学助手、2005年和歌山大学システム工学部准教授、現在に至る。教育工学、オントロジー工学の研究に従事。教育システム情報学会、電子情報通信学会、日本教育工学会、医療情報マネジメント学会、日本医療教授システム学会各会員。



京極 真

2006年東京都立保健科学大学大学院作業療法学専攻博士前期課程修了。2009年首都大学東京大学院人間健康科学研究科人間健康科学専攻・博士後期課程修了。博士(作業療法学)。2001年医療法人尚生会湊川病院常勤作業療法士。2004年江戸川医療専門学校常勤専任講師。2007年社会医学技術学院常勤専任講師。2010年吉備国際大学大学院保健科学研究科准教授。現在に至る。信念対立解明アプローチの基礎応用研究ならびに普及活動に精力を注いでいる。

図2 信念対立解明ツールの質問作成結果画面